

(仮称)町田市里山環境活用保全計画(案)  
パブリックコメント実施結果

2022年3月

町田市経済観光部農業振興課

**(仮称) 町田市里山環境活用保全計画 (案)**  
**パブリックコメント実施結果**

**1 意見の募集期間**

2021年12月15日(水)から2022年1月17日(月)まで

**2 意見募集の方法**

◆以下の施設での資料閲覧・配布

農業振興課(市庁舎9階)、市政情報課(市庁舎1階)、広聴課(市庁舎1階)、男女平等推進センター(町田市民フォーラム3階)、各市民センター、各連絡所、生涯学習センター、各市立図書館、町田市民文学館、小野路宿里山交流館、三輪の森ビジターセンター

◆町田市ホームページに資料を掲載

◆「広報まちだ」(2021年12月1日号)にパブリックコメント実施予告を掲載

◆「広報まちだ」(2021年12月15日号)にパブリックコメント実施概要及び案概要を掲載

**3 寄せられたご意見の件数・内訳**

電子メール、ファックス、ご意見入力ホーム(WEBでの回答)、郵送等を通じて、34名の方から、116件のご意見をいただきました。

参考までにご意見をいただきました34名の方の内訳をご紹介します。

- ・市内28名(うち団体数1)
- ・市外6名

ご意見の項目別の内訳は以下のとおりです。

ご意見の対象(項目)	意見No.	件数
① 計画に関すること	No. 1~79	79
(内訳) 第1章 計画の策定にあたって	No. 1~7	7
第2章 現状と課題	No. 8~23	16
第3章 里山環境の活用に向けた基本方針	No. 24~30	7
第4章 里山環境の活用に向けた具体的な取組	No. 31~55	25
第5章 計画の推進にあたって	No. 56~62	7
計画全般	No. 63~79	17
② 里山環境の保全に関すること	No. 80~88	9
③ 里山環境の活用に関すること	No. 89~102	14
④ 都市基盤の整備に関すること	No. 103~113	11
⑤ 生活環境に関すること	No. 114~116	3
	合計	116

【ご意見の概要及び市の考え方について】

※お寄せいただいたご意見を原文のまま掲載しています。

① 計画に関すること（79件）

第1章 計画の策定にあたって（7件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	<p>第1章 3. 計画の位置付け [p. 5]</p> <p>「町田市北部丘陵活性化計画」を引継ぎ」とありますが、この計画策定後約10年間の事業をしっかりと評価した上で、本計画(案)が策定されるべきだと思います。</p> <p>良かった点は引き継ぎ、悪かった点を改善していく必要があるでしょうが、そのような分析や考察をされているならば、明記した上で計画を立てていただきたいです。</p>	<p>P8の北部丘陵に関するこれまでの経緯において、「町田市北部丘陵活性化計画およびアクションプランの取組による山林の活用を図りましたが、都市基盤の整備に関することや交流回遊拠点施設の開設等、実現できなかった事業もあった」とし、その上で、P5計画の位置付けにおいて、都市基盤の整備については、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めていくこととしております。</p>
2	<p>第1章 5. 対象地域の林相区分図 [p. 6-7]</p> <p>里山を山林や農地として捉えているのだから (p. 14)、林相区分ではなく、農地も含めた土地利用区分を表した方がよいと思います。また、図が鮮明でなかったため、鮮明な図を転載してください。</p>	<p>木材の活用を検討するうえでどのエリアにどのような樹種が多いのか確認する根拠として林相区分図を掲載しました。</p>
3	<p>第1章 6. 計画策定の背景 [p. 8]</p> <p>(1)の書き方が、(2)以降の書き方と違って、背景を説明せずに単なる項目になっています。(2)以降に合わせた方がよいでしょう。これは p. 5 について指摘した点とも重なりますが、北部丘陵で最近取り組まれてきた事業について、どのように評価されているのかを踏まえて、背景を説明するとよいと思います。</p>	<p>ご意見につきましては、今後のとりまとめの参考にさせていただきます。</p>
4	<p>P4 1. 計画策定の目的</p> <p>・第一段落に「町田市は多摩丘陵の北の端に位置し、北部の丘陵地は鶴見川、境川の源流域にもなっており、都市の近郊でありながら、豊かな自然環境を有しています」とありますが、豊かな自然環境とは何なのか具体的に記載してください。</p>	<p>生物の多様性も含めて「豊かな自然環境を有している」としております。</p> <p>現状では、多くの山林や農地に人の手が入らず放置された状況です。多様な主体による連携・協働により、資源の有効活用を図るためには、樹木の伐採などを行い、人が入れるようにしていく必要があると認識しています。</p>

	<p>「谷戸には動植物など生物の多様性が保全され、豊かな自然環境が残されています」など</p> <p>・第二段落には『これまで「町田市北部丘陵活性化計画(基本計画・実施計画)」及び「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン(行動計画)」に基づき、北部丘陵に特化した里山環境の「再生と保全」を推進してきました』とあり、第四段落では「本計画では、こうした地域の資産・資源を有効に活用し、持続可能なものとしていく施策を効果的に推進していきます」とあります。しかしP15 1. 対象地域の現状においては、「荒廃した山林や農地が増え、現在では以前のような里山の環境はほとんど残っていません」とあります。ここで記載されている認識からすると、「地域の資産・資源を有効活用」より先に里山環境の「再生と保全」が引き続き必要になると考えますが、市の認識をお聞かせください。</p> <p>・第五段落の「多様な主体による連携・協働により里山環境を活用していくことで」の部分ですが、前述のコメントから「里山環境を再生・保全・活用していくことで」に変更することを提案します。</p>	<p>そのために、重点事業で山林と農地の再生と活用を位置づけ取り組んでまいります。</p>
5	<p>P5 3. 計画の位置付け</p> <p>・『「町田市北部丘陵活性化計画」の取組等を引継ぎ、里山環境や地域の資源の活用を推進していくための計画とします」とありますが、何を引継ぐのか、何を引継がないのかを明確にしてください。</p> <p>・本文の下の図にも「町田市北部丘陵活性化計画」の位置付けを明示してください。</p> <p>・「町田市北部丘陵 里山環境維持保全実施計画」(2016年)の扱いが明示されていないので明確にしてください。</p>	<p>本計画は、「町田市北部丘陵活性化計画」における里山環境の再生と保全について引き継いで取り組みを進め、都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。</p> <p>「町田市北部丘陵里山環境維持保全実施計画」は、本計画の実施計画として引き続き取り組んでまいります。</p>
6	<p>p. 6-7 町田市は林業地域ではなく、またこれは里山環境活用保全計画なので、林相区分図</p>	<p>木材の活用を検討するうえでどのエリアにどのような樹種が多いのか確認する根拠と</p>

	ではなく、環境省、2.5万分の1植生図、もしくはそれよりも新しくて詳細なものがあればそちらを掲載してください。	して林相区分図を掲載しました。
7	p.9 図が不鮮明。1級河川ではなく、一級河川ではないでしょうか？ 市内の水とみどりという点では境川(二級河川)の存在も重要なので、文章中で触れてください。	ご意見を参考に文言を修正いたします。

## 第2章 現状と課題 (16件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
8	P19(3)、①の1行目及び3行目の文章末、～が求められています。→～が必要です。に変更を望む。 P19(3)、②の3行目の文章末、～が求められています。→～が必要です。に変更を望む。	「地域の課題」につきましては、地域からの要望が寄せられているものを「～が求められている。」とし、それに対する方策について「～が必要」と表現しています。
9	対象地域の現状と課題 [p.15-16] 現状と課題にかなり重複して同じことが書かれており、両者が書き分けられていません。 現状の部分に、すでに課題として言及すべきことが多く含まれていますから、現状には客観的なデータを示して説明した方がよいと思います。 たとえば、町田市内の里山林の林齢がどのくらいなのか。ナラ枯れ被害がどのように広がっているのか。活動団体はいくつあって、どのくらいの面積の里山を整備して、どのくらい資源が活用されているのか。町田の里山を訪れる人、体験イベントに参加する人は、どのくらいいるのかなど。 こうした現状のデータを踏まえて、これまでのやり方ではうまくいかないという課題を抽出するのが、ここで求められることだと思います。	ご意見につきましては、今後のとりまとめの参考にさせていただきます。
10	エリアごとの現状と課題 [p.18-25] 第2章の4. エリアごとの現状と課題において、それぞれの地域課題が多様に示され	ご意見につきましては、今後のとりまとめの参考にさせていただきます。

	<p>ば、エリアごとに現状と課題を分析する意味はありますが、どのエリアでも地域課題はほとんど同じになっているので、この節の位置づけが不明確になっています。</p> <p>ここでの課題分析が甘いために、第4章2. エリアごとの取組 [p. 32-37] について、なぜその取組が必要なのが理解しにくいです。</p> <p>エリアごとの現状と課題については、各エリアの土地利用、法規制、地域資源などを地図に落とすとともに、これまでの事業の成果、地元の声などを踏まえて、情報を整理していただくと、基礎資料として使えるかたちになると思います。</p> <p>特に、ここでは、それぞれのエリアで長く取り組まれてきた保全・活用の現状と課題を整理しておくことが重要です。たとえば、小野路エリアであれば、小野路里山交流館、NPO 法人みどりのゆび、恵泉女学園大学などで取り組まれてきた事業など、小山田エリアであれば、NPO 法人まちだ結の里の活動、農地バンクの施策など、相原エリアであれば一般財団法人相原保善会の活動などがすぐに頭に浮かびます。自治会をはじめ地域団体に取り組んできたこともあるでしょう。こうした活動のこれまでを把握した上で、これからを構想するという流れが必要だと思います。</p> <p>このようにして整理したエリアごとの課題を踏まえて、第3章の基本方針が示され、第4章のエリアごとの取組が導き出されるという論理的な構成にしていきたいです。</p>	
11	<p>P14 第2章 現状と課題</p> <p>・「里山とは」で始まる部分は町田市の里山の定義と思われそうですが、本計画（案）において、町田市の考える里山とは何か、資源とされている里山環境とはどのようなものなのかの定義を明示願います。</p>	<p>本計画は、人の手が入らず放置された山林や農地の再生を図り、その環境を多様な主体と連携・協働して活用することで、持続可能な保全につなげることを目的に策定するものです。</p>
12	<p>P16 2. 対象地域の課題</p>	<p>活動団体の課題につきましては、一般的な課</p>

<p>・「里山環境が荒廃している要因としては、山林や農地を管理する住民の経済的な負担の増加や高齢化、市内で活動するボランティア等の団体メンバーの固定化による高齢化や活動の担い手不足などがあげられ、かつての里山環境の再生を目指すことでは解決の糸口が見えない状況があります」とありますが、ボランティアの活動のあり様が荒廃の要因の一つとされることには納得しがたい。</p> <p>・また「固定化による高齢化や活動の担い手不足」を裏付ける調査報告等があれば紹介ください。もし無いのであれば、全体を言い切った表現からもっと適切な表現に修正してください。(まちだ結の里では、過去4年に入会した会員は全会員の42%を占めているという事実があります)。</p> <p>・「かつての里山環境の再生を目指すことでは解決の糸口が見えない状況があります」とあるが、里山の環境そのものが再生され保全・維持されていなければ、本計画(案)で考えられている活用も芯のないものになってしまうと懸念します。ボランティア活動だけでは北部丘陵全体の里山の荒廃を止めることはできませんが、少なくとも里山の生物の多様性を再生し維持してきたエリアでの活動は、これからの方向性の一つの基本的なあり様として重要と考えます。(「奈良ばい谷戸」では、「荒れた里山」を農的手法によって里山環境を再生し、現在も保全、維持活動が続いています。再生された里山では景観が蘇っただけでなく、700種類を超す植物や貴重な水棲動物などもみられるようになり、現在もその調査・保護を継続しています。)</p> <p>・「来訪者のマナーやモラル向上にあたっては、里山環境の魅力を適切に発信するとともに、地域の住民と来訪者にとって良い関係性を構築することが必要になります」とありますが、里山で活動する人、団体の努力だけで</p>	<p>題を記載いたしましたが、全ての団体がそのような状況にはございませんので、活動団体の現状に即し、文言を修正いたします。</p>
---	---

	<p>はなく、来訪者の行動、思考変容も必要と思われるので、その点も指摘していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の住民だけでなく、民間事業者など多様な主体と連携し」とありますが、参考になりそうな事例を明示願います。</li> <li>・課題だけに触れてあり、現状でもうまくいっていることや強みについては触れられていません。冒頭にて紹介しましたように、荒廃した里山を再生し保全、維持している活動もあることを記してください。今の表現だけを見た市民は里山という場所は課題だらけで、その解決に人的・財政的資源を使うことに躊躇する恐れを心配します。強み、誇りも併記して、里山の本当の姿をバランスよく表現してください。（「奈良ばい谷戸」では、「荒れた里山」を農的手法によって里山環境を再生し、現在も保全、維持活動が続いています。再生された里山では景観が蘇っただけでなく、700種類を超す植物や貴重な水棲動物などもみられるようになり、現在もその調査・保護を継続しています。）</li> </ul>	
13	<p>P16 2. 対象地域の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段に写真付きで「里山環境の再生活動が行われる前の谷戸」と「里山環境の再生活動が行われていた現在の谷戸」が紹介されていますが、後者は「行われていた」と過去形にするのではなく「里山環境の再生活動が進行している現在の谷戸」に改めてください。</li> </ul>	<p>ご意見を参考に文言を修正いたします。</p>
14	<p>P17 3. エリアの区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市全体の里山環境活動保全計画が示されていないなか、この4つのエリアを抽出し今回の対象とした理由・背景をお聞かせください。</li> <li>・地域分けの問題で小野路と小山田を分けていますが、小野路の歴史環境保全地域および奈良ばい谷戸を中心とした地域は小山田との緑の連続性が強くあります。鎌倉街道で緑</li> </ul>	<p>本計画の対象エリアには、現状里山の風景が残っているところを対象とし、エリア分けにつきましては、特に地域住民との連携・協働により進めていくことが重要になると考え、町ごとにエリア設定いたしました。</p>

	地としては大きく分断されていると思いますのでもし分けるのであれば、分け方の再考をお願いします。	
15	P18-P19 4. エリアごとの現状と課題【小山田エリア】、P20-P21【小野路エリア】 ・「里山環境を活用する担い手の支援と活動基盤の整備」に「民間資金の導入」「民間事業者等と連携・協働」とありますが、同様に必要と思われる市の財政支援、人的支援についても明記してください。	市が行う支援につきましては、エリアに限定することなく実施します。具体的な取組は重点事業および各エリアのリーディングプロジェクトに位置づけ取り組んでまいります。
16	P24 4. エリアごとの現状と課題 ・【三輪エリア】においては「市民活動団体の方々が町田市との協働による緑地保全活動を行っています」とありますが、【小野路エリア】の奈良ばい谷戸の活動や他のエリアの活動も三輪と同様に記載してください。	ご意見を参考に文言を修正いたします。
17	P17エリアの区分がなぜこの4つになったのかが計画案からはわかりません。市街化調整区域を主な対象にしたとのことですが、里山は市街化調整区域に主に存在するわけではなく、意味のある根拠ではありません。この区域以外にも、例えば薬師池公園周辺にも里山が広がっていますが、この計画からは薬師池公園周辺をどうするのが読み取れません。	本計画の対象エリアには、現状里山の風景が残っているところを対象としております。本計画は、「町田市都市づくりのマスタープラン」や「第3次町田市環境マスタープラン」を受け、事業の推進を図ってまいります。薬師池公園および周辺のエリアにつきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」において、活動とみどりの都市拠点として位置付け、魅力ある観光拠点を目指すとしています。
18	p. 15-16「1. 対象地域の現状」と「2. 対象地域の課題」の内容が重複しています。現状と課題の要因とを書き分けることができますか。どのような課題が生じているのか、表を用いるなどして明記するとわかりやすいのではないのでしょうか。 以下の課題も指摘した方がよいのではないのでしょうか。 ・竹林の拡大、常緑樹林への遷移 ・希少動植物の消失、外来種の増加 ・カラスやハクビシン、イノシシなどによる里山農地での鳥獣被害	今後のとりまとめの参考にさせていただきます。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水源の消失（湧水の減少や、リニア開発による将来的な消失の可能性）、</li> <li>・リニア新幹線のトンネル工事により小山田、小野路、相原地区では特に地下水脈が大きな影響を受けることと思いますが、この点については触れなくてもよいのですか？</li> </ul>	
19	P18-P25 4. エリアごとの現状と課題 各エリアに共通する現状と課題が多くあり、記述が重複しています。P.16の「2. 対象地域の課題」とあわせて整理し直してはいかがでしょうか。例えば、対象地域の現状と課題を表にして、表の中に4エリアの列を設け、該当する現状と課題に印をつけるなどしてはいかがでしょうか。	今後のとりまとめの参考にさせていただきます。
20	P18, P20「谷戸山」は固有名詞としては使われますが、地形や土地利用を指す用語としては使われますでしょうか？	ご意見を参考に文言を修正いたします。
21	p.19 町田を通る古道は奥州ではなく上州高崎に抜けて中山道に続くのではないですか？	ご意見を参考に文言を修正いたします。
22	p.21 歴史の項目では、小野路宿通りが大山参りで栄えたことにも触れてはいかがでしょうか。	今後のとりまとめの参考にさせていただきます。
23	p.22①自然環境 ア. 地形 西端に町田市最高峰の草戸山(365m)があり、その北東面に境川の源流があることを述べてはいかがでしょうか。	今後のとりまとめの参考にさせていただきます。

### 第3章 里山環境の活用に向けた基本方針（7件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
24	P26 将来像「住む人も訪れる人も居心地のよい、まちだの里山」は理解できるが、実際的な取組が進むと、住む人よりも外部の人の意向が優先されていく懸念がある。取組の進行にあたっては、住む人の意見を尊重して進めていただきたい。	事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。
25	P28 手入れの行き届かない樹林地・農地の増加への対応、どのように活用していくのか見	再生した山林や農地の活用につきましては、団体や企業など多様な主体の連携・協働によ

	<p>えない。</p> <p>4つの基本方針1で、「山林と農地を再生する」とありますが、昔の様な里山に戻すことでしょうか？別の活用方法は考えられないのでしょうか？</p>	<p>り、時代に即した新たな循環サイクルを構築し、「新しい里山づくり」に取り組んでいきたいと考えております。</p>
26	<p>P29 基本方針4の「ここで何かを始めようと考える人を後押しする」とありますが、バラバラな活動でもよいのでしょうか。前にも記しましたが行政の「里山の利活用の方法」が見えません。</p>	<p>本計画は、多様な主体の連携・協働により、里山環境を継続して活用し、持続可能な保全につなげていくことを目的としておりますが、活動内容につきましては、限定することなく幅広く検討してまいります。</p> <p>ただし、事業の実施あたりましては、住む人にも来る人にも居心地のよいものであることが重要になると認識しています。</p>
27	<p>行政は P26 の里山で行われる活動のイメージを前面に出し「これからの里山の利活用はこのように考えている」「地域の方々、地主の皆さん、市民・ボランティア・事業者の皆さん、一緒に行動をしましょう！」と呼びかけないのでしょうか？ 私は、まちのみどり・里山の利活用はこれしかないと思います。逃げないでください、私たち市民から見たらそう見えます。正面から地元の方々地主さん等々と、とことん話し合い、早急に実行されることを望んでおります。境界問題も大いに難しいでしょうが何らかの解決策があるはずです。</p> <p>私たちボランティアは高齢化の為もう限度です、農家の方も同じかと思えます。</p> <p>折角、保全活動でよみがえったほんの一部のみちのみどり・里山が又荒れ果てた状態に戻る前に！</p> <p>そして里山活用で生計が経つ事業と一緒に考え実現をしましょう。</p> <p>住む人も 訪れる人も 居心地の良いまちだの里山</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
28	<p>「住む人も 訪れる人も 居心地のよい まちだの里山」という将来像 [p. 26]</p> <p>今日のグリーンインフラの活用や SDGs に向</p>	<p>将来像の設定にあたっては、みどりを求めて来訪される方がいる一方で、その地域で生活されている方もいることから、本計画を進め</p>

	<p>けた潮流を踏まえれば、里山の環境が守られてこそ、社会経済活動が持続できると考える必要があると思います。</p> <p>しかし、この「居心地のよい」という里山の将来像には、生態系へのまなざし、次世代への継承といった観点が希薄に感じます。</p> <p>また、ここに書かれている文章から内在的に考えても、「時代に即した新たな循環サイクル」と「住む人も訪れる人も居心地のよい」との間が、乖離しているように思います。</p> <p>基本方針としては、「時代に即した新たな循環サイクル」を生かした方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>ただし、本計画（案）の循環という言葉には、里山資源の循環までしか射程に入っていないように読めます。そうではなくて、生態系の物質循環の仕組みを回復させること、世代間で知恵や技を継承していくこと、さらに、地域内に経済を循環させることなども含むと説明するとよいのではないのでしょうか。</p>	<p>ていくうえでは、双方にとって居心地のよいものでなければならぬとして設定しております。</p> <p>なお、本計画は「第3次町田市環境マスタープラン」を受け、事業の推進を図ってまいります。</p>
29	<p>第3章 3. 4つの基本方針 [p. 29]</p> <p>基本方針4に「里山ではじめる」とありますが、これから何か始める人を支援することはよいとして、これまで活用保全をすすめてきた人たちの支援も重要だと思います。前者を起業支援とすれば、後者は第2 起業の支援や事業承継に類比できますが、両方ともに目配せしておくべきだと思います。</p> <p>すると、「里山ではじめる」ではバランスが悪いので、両者を含むかたちで「里山をいかす」でもよいのではないのでしょうか。</p> <p>さらに、ここでもう1つ指摘すると、「野菜や木材などの里山の産物を活かしたビジネス」とありますが、現在、国が森林サービス産業を推進しているように、産物（モノ）だけではなくサービスも含めたビジネスを射程に入れておくとよいと思います。</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
30	P26 里山環境の活用に向けた基本方針	事業の実施にあたりましては、地域住民・団

	<p>「住む人も訪れる人も居心地のよい、町田の里山」を将来像と掲げ目標にするのはとても良いと思う。ただそこで生活をしている住民の声よりも外部の人の意向が優先されないよう考慮し、直接関係している住んでいる人の意見を尊重してほしいと思う。</p>	<p>体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p>
--	---	------------------------------------

#### 第4章 里山環境の活用に向けた具体的な取組（25件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
31	<p>保全計画(P32)、1の②、2行目マウンテンバイクやドローン、ジップライン……。→ドローンを文章から削除して欲しい。まだ話し合いを持ったことがないため。</p>	<p>マウンテンバイクやドローン、ジップライン等は参考事例としてお示ししております。事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p>
32	<p>P30 重点事業1について、「山林と農地の再生と活用」・・・再生に取り組みます。活用でなく再生ですね？生産性の低い土地の再生には反対です。</p>	<p>重点事業1「山林と農地の再生と活用」では、手入れが行き届かない山林や農地を再生整備し、再生により発生した木材などの活用と再生した里山環境で活動したい団体等を受け入れる環境の整備を行います。 山林や農地の再生にあたっては、優先順位をつけ効率的に実施していくことが必要になると考えます。</p>
33	<p>P30②の山林の再生ですが、まちだの里山は地域によって違いますが、コナラ・クヌギの広葉樹が多いと思います、これを山林の資源と考えるのでしょうか？</p>	<p>本計画では、伐採した広葉樹を資源として活用することも検討してまいります。</p>
34	<p>P32-P37 エリアごとの取組について個々に上げたらきりがありません、一つ例を挙げますので再考をお願いします。 小野路エリアのリーディングプロジェクトの「竹林の再生と活用」ですが、数えられないほどの放置された竹藪があります、一部の竹やぶを残し「何かの事業」を行うのであれば別ですが、2～3000㎡ほどの竹やぶで竹を利用した体験プログラムを組んでも「里山の再生」「地域の活性化」には程遠い話です。わざわざ4エリアに別々のリーディングプロ</p>	<p>各エリアのリーディングプロジェクトにつきましては、地域の実状や活動状況などを考慮し、2022年度から5カ年間で取り組む事業を定めております。 ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

	<p>ジェクトを掲げていますが、共通していることが多いのではありませんか？ 大きな4エリアの中に中エリアを設け、P26の里山で行われる活動のイメージのパーク？を設けることを考えてはいかがでしょうか？</p>	
35	<p>エリアごとの取組 [p. 32-37]</p> <p>エリアごとに現状と課題が整理されていないので、取組の妥当性が理解できません。</p> <p>まず、「地域の取組テーマ」が、どのような根拠をもとに打ち出されたのかわかりません。</p> <p>このために、「リーディングプロジェクト」も論理的に導き出されたものではないようです。</p> <p>たとえば、小野路エリアでは「竹林の再生と活用」が掲げられていますが、なぜ、このエリアだけで竹林が取り上げられているのでしょうか。竹資源を加工するとなれば、小野路だけではなく、広域的な資源管理と連携させて取り組むべき課題だと思います。むしろ、竹林の再生と活用であれば、町田市全体で取り組むべきものとして位置付けてもよいのではないのでしょうか。</p> <p>このような疑問が生まれてしまうのは、それぞれのエリアの取組が、どのような現状と課題を踏まえて示されているのかわからないからです。</p> <p>計画の中には、後から間違えていた、失敗したとわかることもあります。計画とは後から修正していくものだと考えておく必要があるでしょう。</p> <p>今後、計画を正していくときに、どのような現状分析から課題を特定して、計画を立てたのかという論理の筋道を残しておくことが大事だと思います。</p> <p>ところが、本計画（案）では、そうした論理が見えないので、恣意的に計画が作られたように見えます。</p>	<p>地域の取組テーマは、エリアごとの資源や特徴を活かし、取り組みの方向性を示したものです。</p> <p>また、各エリアのリーディングプロジェクトにつきましては、地域の実状や活動状況などを考慮し、2022年度から5カ年間で取り組む事業を定めております。</p> <p>ご意見につきましては、今後のとりまとめの参考にさせていただきます。</p>

	なぜ、本案に書かれている「具体的な取組」が考え出されたのか、そのプロセスを計画に書き込んでください。	
36	<p>第 4 章 1. 町田市全体の取組（重点事業） [p. 30-31]</p> <p>「新たな循環サイクルの構築」を目ざそうとしているのに、なぜ重点事業 1 の達成指標が山林再生の面積なのでしょう。</p> <p>資源循環に焦点を当てるならば、材積を示すべきでしょうし、あるいはサーキュラーエコノミーを意識するならば、町田市の里山資源が生みだした付加価値を金額で示す方が適当ではないでしょうか。</p> <p>また、山林再生の取組として間伐を実施すると書かれていますが、特に高齢化した雑木林に必要なのは間伐ではなく、小面積の皆伐更新だと思います。「新たな循環サイクル」の構築には、除間伐を中心とした森林整備では十分ではないという課題認識が必要だと思います。</p>	<p>多様な主体による連携・協働により、里山環境を活用し持続可能な保全につなげるためには、現状において、人が入ることができないような山林に手を入れていく必要があることから、達成指標を山林の再生面積といたしました。</p> <p>また、ご意見を参考に文言を修正いたします。</p>
37	P30③の具体的な取組の中の「コーディネート」は、重点事業 2 と重複しているように読めるので、「環境整備」などと書き方を変えた方がよいと思います。	ご意見を参考に文言を修正いたします。
38	P31 重点事業 2 と重点事業 3 では、達成指標に現状値が書かれています。これは町田市の里山の現状を表す 1 つのデータとして、2 章で示しておくべきでしょう。そうでないと、ここで達成指標として出てくる理由がわかりません。	重点目標における達成指標につきまして、根拠などの説明を追加いたします。
39	<p>◇小野路エリア [p. 34-35]</p> <p>取組テーマとリーディングプロジェクトの間に整合性が見られません。</p> <p>自然・歴史資源、農環境の活用は大事だと思いますので、そこからフットパスの再整備が導き出されるのはわかります。小野路には、竹林だけではなく、高齢の雑木林の管理や谷戸田の再生も求められます。そのような里山</p>	<p>地域の取組テーマは、エリアごとの資源や特徴を活かし、取り組みの方向性を示したものです。</p> <p>また、各エリアのリーディングプロジェクトにつきましては、地域の実状や活動状況などを考慮し、2022 年度から 5 カ年間で取り組む事業を定めております。</p> <p>ご意見につきましては今後の事業をすすめ</p>

	<p>環境を活用していくならば、むしろ SDGs をテーマにした観光やまちづくり、教育・医療・福祉との連携などをリーディングプロジェクトに挙げていただきたいです。</p> <p>また、プロジェクトの 1 と 2 は具体性のレベルが違いすぎます。「2. 地域の課題解決につながる取組の推進」をプロジェクトとしてしまったら、「1. 竹林の再生と活用」はそのうちの 1 つに過ぎなくなります。ほかのエリアにも言えることですが、プロジェクトの具体性のレベルは揃えるべきでしょう。</p>	<p>るうえでの参考にさせていただきます。</p>
40	<p>相原エリア [p. 36-37]</p> <p>プロジェクトの 1. 2. は一つにまとまると思います。</p> <p>このエリアの里山については、八王子側の活動とも連携を図る必要があるでしょうから、そのことも書きこんでいただきたいです。</p> <p>また、相原保善会が中心になって取り組んできた森林整備の活動を、この計画の中にどのように位置付けていくのかを書きこんでいただきたいです。</p>	<p>P38 において、計画の推進にあたっては、多様な主体による連携・協働および関連自治体との連携強化に取り組んでいくことを記載しております。</p>
41	<p>P30～P31 1. 町田市全体の取組（重点事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「重点事業 1 山林と農地の再生と活用」のなか「達成目標」である「新たな山林再生に着手した面積」の原状値が 0 (㎡) となっていますが、これまで「町田市北部丘陵活性化計画」で取り組んできた面積を原状値とするのが適切であるように思えます。重点事業 2, 3 では原状値は現況となっています。</li> <li>・「重点事業 2 活動に参画する団体や企業・個人など、担い手の確保と支援」のなか「達成目標」の「活動に参加する団体数」の定義を明示ください。企業・個人も支援するのであれば、団体数だけが目標にはならないように思えます。</li> <li>・「重点事業 3 まちだの里山の戦力的な情報発信」のなかで「達成目標 まちだの里山の来訪者数」はどのように計測しているのか明</li> </ul>	<p>重点目標における達成指標につきまして、根拠などの説明を追加いたします。</p>

	<p>示してください。おそらく小野路宿里山交流館への訪問数だと想像しますが、当施設を利用するのは一部の来訪者であり、全体を示してはいません。数万人のために人的・財政的資源を使うことに理解を得るのは難しいと考えるので、指標を変更するなど見直しをお願いします。</p> <p>・3つの「達成指標」はどのように設定されたのかを明示してください。もしロジックモデルのような手法を採用されるのであれば、達成の定量的評価がしやすいと考えます。</p>	
42	<p>P30「重点事業1」の中ですが、雑木林・農地が一体となつての里山であり、「携わる団体が協同し里山として一体性のある再生が行われるよう取り組みます」と追記してください。</p>	<p>本計画は、多様な主体の連携・協働により、里山環境を継続して活用し、持続可能な保全につなげていくことを目的としております。重点事業1では、手入れが行き届かない山林や農地を再生整備し、再生により発生した木材などの活用と再生した里山環境で活動したい団体等を受け入れる環境の整備を行います。ただし、事業の実施あたりましては、住む人にも来る人にも居心地のよいものであることが重要になると認識しています。</p>
43	<p>・「北部丘陵活性化計画」では北部丘陵の拠点と回遊のネットワークとして、「奈良ばい谷戸」にも交流・回遊の拠点を つくることとなつていましたが、本計画（案）ではそのことについて触れられていませんので、北部丘陵活性化計画に変更があるのかも含めて明示してください。</p>	<p>交流回遊拠点施設の整備につきましては、小山田エリアのリーディングプロジェクトに位置づけ進めてまいります。</p>
44	<p>P30-P31重点事業に掲げられている各事業の趣旨に賛同します。その上で、活動に参画する団体などの担い手を増やすことや、「まちだの里山」の戦略的な情報発信をより補強する取組として、町田市農協直営のアグリハウ</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。農業施策につきましては、「第4次町田市農業振興計画」と連携し対応してまいります。</p>

	<p>スや各地域スーパーで取り入れられている町田農産物を明記しての農産品の販売にならって、まちだの里山さんのタケノコ類や山菜なども、対象に加えてはいかがでしょうか？その収益の一部は、重点事業の補助に回しても結構だと思います。最近、コロナ禍で活動が中断している青少年活動（青空学校や幼稚園・保育園での芋ほり活動など）で里山体験を取り入れても良いと思います。</p>	
45	<p>p. 31 重点事業 2「里山の魅力にふれあう機会」「資源を活用する活動やイベント」などの支援はもちろん重要ですが、里山資源を地域の経済活動に組み込んでいく仕組みづくりを考えていかないと、将来にわたって持続可能なものとするのは難しいのではないのでしょうか。</p>	<p>重点事業 2 は、団体や企業等の活動が継続し、持続可能な保全につながるよう必要な支援を行うものです。</p> <p>里山環境を持続可能なものとするためには、団体等の活動を地域の経済活動につなげていくことが重要になると認識しております。</p>
46	<p>P31 重点事業 3 本項目の趣旨とはずれのかもしれませんが、町田の生物相の一覧をホームページなりに掲載し、誰でもいつでも閲覧できるようにしてはいかがでしょうか。里山環境を保全、活用していくためには、その主要な対象となる生物の現状について多くの市民が情報を入手し理解を深めることができるようになっている必要があると思います。</p>	<p>ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
47	<p>p. 33 プロジェクト 2 農を活用・・・ 他のプロジェクトに比べて内容が乏しいです。都下に残されている貴重な都市農地は体験や農産物生産の場だけでなく、子どもたちにとって生きた教育の場であり、コロナ禍などによって精神的に不調を訴える大人にとっては、安らぎを感じる場として、重要な役割を果たすなど、人口密集地である都心ならではの多面的機能を発揮する潜在力を有しています。農にはそのような多面的な機能が有することをもっと全面的に打ち出し、誰一人取り残さないために、社会問題解決につながる具体的なプロジェクトを提案しては</p>	<p>各エリアのリーディングプロジェクトにつきましては、地域の実状や活動状況などを考慮し 2022 年度から 5 年間で取り組む事業を定めております。</p> <p>事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p> <p>各エリアのリーディングプロジェクトにつきましては、地域の実状や活動状況などを考慮し 2022 年度から 5 年間で取り組む事業を定めております。</p> <p>なお、ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます</p>

	<p>どうでしょうか。</p>	<p>す。</p>
48	<p>P33 プロジェクト 3 地域の課題解決・・・ 「持続可能な環境の保全につながる事業を (中略) 実施します。」とありますが、具体的にはどのような事業ですか？</p>	<p>小山田エリアでは、地域住民や団体、企業等と協働し、未利用の山林を活用した木工体験やジップライン、スラックライン、マウンテンバイク体験会、自転車のマナー啓発を目的としたロードバイク試乗会など、地域の課題解決につながる取り組みが行われております。</p>
49	<p>P32-P37 他のエリアも同様ですが、取り組みテーマとして歴史資源があげられ、地域の特性としても歴史について説明があるにもかかわらず、歴史が前面に取り上げられたプロジェクトがありません(散策やマップの作成に含まれているのかと思いますが)。鎌倉古道や小野路エリアでは小町井戸、小野路城、布田道と近藤勇、宿通り、自由民権運動、そして角屋を一部移築した里山交流館があります。また、相原エリアでは八木重吉、夕焼小焼の歌(八王子市という説もありますが)、大戸囃子といった文化面の資源もあります。生物、農、景観だけでなく歴史や文化といったものも里山活用保全では重要かと思えます。</p>	<p>地域の取組テーマは、エリアごとの資源や特徴を活かし、取り組みの方向性を示したものです。 また、各エリアのリーディングプロジェクトにつきましては、地域の実状や活動状況などを考慮し、2022 年度から 5 カ年間で取り組む事業を定めております。 ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
50	<p>p. 36-37 相原エリア、三輪エリア 小山田エリア、小野路エリアに比べると具体性に乏しいように見えます。 相原エリアの文化面のプロジェクトについては上記の通りです。 相原のプロジェクト 1. 連携・協働の体制づくりでは、長年大戸緑地で活動されている源流の会との連携にも触れてはいかがでしょうか。</p>	<p>各エリアのリーディングプロジェクトにつきましては、地域の実状や活動状況などを考慮し 2022 年度から 5 カ年間で取り組む事業を定めております。 事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。 各エリアのリーディングプロジェクトにつきましては、地域の実状や活動状況などを考慮し 2022 年度から 5 カ年間で取り組む事業を定めております。 ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

51	地区内住民に対する雇用の確保。(地域内事業に対しては、地域内住民の優先的な雇用する。)	地域雇用の確保につきましては、交流回遊拠点施設の整備等のプロジェクトが雇用の創出につながると考えております。
52	里山保全計画を進める上で土地の境界が不明確な点が気になる。しっかり毎年予算をつけて、少しずつでも境界を決めていくべきである。	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。
53	P25, P26 対象地域の現状と課題について、土地の境界が不明確であることが挙げられている。このため、今後の事業展開に支障が生じないように、北部丘陵地域(小山田・小野路エリア)で境界が確定していない市有山林・農地等について、境界測量を数年に分けて実施していくことを、具体的な取組(達成指標を面積等で表現)に加えるべきである。市有山林・農地等は境界測量・地目変更を行い、民有地との交換による集約を実施し、効率的な活用保全を目指すべきである。	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。
54	北部丘陵地域の市有地(山林・農地等約100ha)は、民有地と混ざって分散していて活用保全がしにくい。 具体的な取組として、境界測量・地目変更を行い、民有地との交換による集約を実施し、効率的な活用保全を目指すべきである。	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。
55	・里山の保全管理活動をしている団体や、近隣農家が協働で里山の環境保全につながる事業を実施したいと計画する時に参考になるよう、主に林野庁などが実施されている補助金・助成金事業を紹介するリーフレット等を市が作成し、利活用できる仕組みを構築してください。	国や東京都と連携し、各種助成制度の情報収集に努めてまいります。

## 第5章 計画の推進にあたって(7件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
56	ビジョンの作り方について [p. 38] 上記の将来像に関連して、もう1つ重要だと思われることを指摘させてください。 それは、「居心地のよい」とか「循環サイク	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。

	<p>ル」という言葉だけでは、どのような里山を目ざすのかが明確ではないということです。</p> <p>「時代に即した」と書かれているように、本計画（案）で目ざしているのは、高度成長期以前のように、里山資源が循環的に利用されていたときに戻すことではないでしょう。今後も、クヌギ・コナラを中心とした雑木林を維持することが自明とは言えないはずです。生物多様性やバイオマス利用の観点からいえば、減少してきた草原や湿地を再生させることも重要な取組になると思います。</p> <p>それなのに、広葉樹を活用するために伐採するとして、将来どのような森にしていくのか、具体的な姿（ビジョン）がイメージできません。</p> <p>たとえば、山林の資源はどのように利用されるのか、農や街との関係を結び直すような構想を描いてもよいでしょう。そのとき、山林はどのような樹種によって構成されているのでしょうか。</p> <p>まだ、こうした将来の里山ビジョンがないのであれば、それを地元の人たちを中心に、多様な主体で連携しながら考えることが大事だろうと思います。</p> <p>本計画の進行管理は「計画推進委員会」のような団体が担えばよいと思いますが、この計画に書きこむことができなかつた里山の将来像を、それぞれのエリアできちんと立てていくことが必要だと思います。</p>	
57	P39・コーディネートとか連携強化など抽象的な表現になっていますので、具体的な責任、役割を明示してください。	ご意見につきましては、今後のとりまとめの参考にさせていただきます。
58	P39・市の中でも、農業振興課など中心になる組織があると思いますので、それを明示してください。	計画書の奥付に計画の担当課として「農業振興課」を記載しています。
59	P39・市以外の他のステークホルダーの役割、責任も明示して、この計画が市だけの計画だけでなく、関係者が深く携わる必要のある計	計画策定の目的において、「多様な主体による連携・協働により里山環境を活用することで「住む人も訪れる人も居心地のよいまちだ

	画であることを文章化してください。	の里山」を実現するための計画」としており、町田市の役割を P39 に記載しています。
60	協力している地権者にとって負担とならない里山（山林）であるべきである。 将来的に、固定資産税減免や相続税納税猶予などを取組として検討して欲しい。	事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。
61	普段からマウンテンバイクで乗り入れている者です。できるだけ地域や地主の方にご迷惑をかけないように走っているつもりですが、実際のところがわからないので、利用者、地権者、行政が一同に会せる機会をつくってください。会議やパネルディスカッションではなく、互いの意思疎通やアイデア交換などを気軽にできるよう、現場でお祭りに実施して頂きたいです。稲城市や相模原のように自転車に取り組んでいる事例をもとに、ロード含むサイクリストから地域の方が集えるようなカフェなども検討してはどうでしょうか。ロードについては乗り手側の安全啓発とともに、ドライバーさんの交通法規遵守の徹底をお願いしたいです。多摩丘陵西部の自転車の聖地となるよう、町田市に期待しております。	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。 事業の実施にあたっては、地域の理解が重要になると認識しており、そのためには、地域と利用者と行政が意見交換を行うことができる場をつくっていく予定です。
62	町田市行政から捨てられた「町田市北部丘陵地区」に光を 1968年（昭和43年）に新しい都市計画法（法律第100号）が発令され町田市全体が都市計画区域に位置づけられ、1970年（昭和45年）に市街化区域と市街化調整区域に区分されました。 小山田地域の北側は市街化調整区域に区分され優先的かつ計画的に市街化を図ることはできないが、都市計画法の規定により20haを超える地区を定めれば土地区画整理事業により計画的に市街化を図ることができることにされていました。しかし、小山田地区内に5地区の区画整理事業の準備組合ができましたが、町田市・東京都の方針によ	事業を推進していくうえで、地域における過去の経過は重要であると認識しております。また、事業の推進にあたっては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。 組織や体制づくりへのご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

	<p>り都市計画法を無視して市街化を図る土地 区画整理事業が阻止されました。</p> <p>本来ならば、都市計画法の規定に基づいて 市街化調整区域も概ね5年ごとに都市計画 に関する基礎調査をして、市街化区域に編入 するとされていたが、極一部が編入された だけで、その後基礎調査もされず市街化調整 区域として凍結されたままとなり現在に至っ ています。</p> <p>民間による区画整理事業は前述のとおり 阻止されたが、公の公団（現在のUR）によ る区画整理が始まり、公団により地区の約3 0%が土地買収が計画通りに進んだところ で国の方針が変わり2003年（平成15 年）に小山田地区の区画整理事業は中止され ました。</p> <p>その後、区画整理事業が中止された地域を どのような地区にするかを担当する町田市 の機関として「北部丘陵整備課」が組織され、 UR が買収した土地を町田市が買い取り、2 005年（平成17年）に「北部丘陵まちづ くり構想」、2011年に「町田市北部丘陵 活性化計画」、2017年に「町田市北部丘 陵アクションプラン」が発表されました。計 画通りには進まず、北部丘陵整備課が廃止さ れ農業振興課に吸収され、「北部丘陵まちづ くり構想」は挫折しました。その結果、今回 の「町田市里山環境活用保全計画」となりま した。</p> <p>そこで、「まちだ未来づくりビジョン20 40」推進のため、都市づくり部地区街づく り課の中に北部丘陵整備担当を組織化して 小山田地区に光をあてて下さい。</p>	
--	---	--

計画全般（17件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
63	町田市が里山をどうしようと考えているの か、実施計画があるのかも見えてこない。	「町田市北部丘陵活性化計画」では、里山環 境の「再生と保全」を進めてきました。本計

	2011年3月「町田市北部丘陵活性化計画」から全く前進が見られません。	画では、多様な主体の連携・協働により、里山環境を継続して「活用」し、持続可能な保全につなげてまいります。
64	みどり・里山の保全活動にボランティアを期待しすぎています。	本計画では、ボランティアの方々だけでなく、企業や団体などの参画も検討してまいります。
65	行政は余りにも市民ボランティアの現状を理解しておりません。既に活動をしている団体メンバーは「高齢化し」「新たな活動を始めよう！」とする人は、殆んどいません。新規加入者もなく、後継者もないのが現状です。 まちだ結の里は他と違うところがあります、是非何が違うか、何故新規加入者があるのかお調べください。	事業の推進にあたりましては、活動団体等とも連携を図り進めてまいります。
66	・本計画（案）が推進されるためには、関わる人（市民）の増加が必要と考えます、現状は各組織に任されている形の「里山保全の担い手の教育・研修の場の構築」を市が主導的に実施することを提案します。	活動に参加する団体や企業・個人など、担い手の確保や支援につきましては、重点事業に位置づけ進めてまいります。
67	全般として ・本計画（案）が町田市全体/市民全体に対して向けられた計画ではなく、地域限定のものとなっています。町田市全体の里山環境の現状と課題についての認識を示し、全市民に開かれた計画（案）の策定を検討願います。例えばP12(6)グリーンインフラの活用が進められているとありますが、どれくらいの市民が望んでいるのかとの疑問があります。	本計画は、現状で手入れがされず放置された山林や農地を多様な主体による連携・協働によって活用を図り、貴重な資源として将来にわたって保全していくことを目的として策定します。 グリーンインフラにつきましては、近年、国において積極的に推進している取組であり、町田市においても取り組むべき社会的な要請事項と捉えています。
68	・現状分析の一つとして市の財政の中で当事業に関わる財政割合を示して、その大きさ（あるいは小ささ）を市民に理解してもらうことはどうかと提案します。	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。
69	・当事業に向けた予算獲得への意気込みも何らかの方法で示すことは出来ないでしょうか。重要事業と定義するので全予算の何%は確保するとか、国の骨太の方針のようにそこに入ればある程度の予算は獲得できるなど	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。

	のようなものを期待します。	
70	・(仮称)里山環境活用保全計画推進委員会には学識経験者として植物・動物の研究者、文化財の専門家を含めてください。この地区をある程度の期間、研究している方を希望します。	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。
71	山林と農地の再生・活用をするにあたって、地権者が不在、不明の民有地もけっこうあるのではないかと思います。そういった土地にもしっかり踏み込んで、再生・活用する力強いプランとなることを期待します。	ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。
72	専業農家にとっては使いやすい農地がどれだけあるかは死活問題です。使いやすい農地がもし再生できたら、まずは専業農家に貸していただきたい。地域に根をおろした専業農家が育つことは里山保全・活用にもプラスになると考えます。	農地の再生や利活用につきましては、「第4次町田市農業振興計画」と連携して対応してまいります。
73	町田市は鶴見川の上流域に位置し、鶴見川の支流がいくつか存在します。資源循環を考えたときに水の循環も重要なので、エリアの区分は河川の流域を単位として設定すべきと考えます。	「第3次町田市環境マスタープラン」において「水辺環境の保全」を市の取組として位置付けています。河川流域の水の循環につきましては、国土交通省や近隣自治体と連携して取り組んでまいります。 なお、エリア分けにつきましては、特に地域住民との連携・協働により進めていくことが重要になると考え、町ごとにエリア設定いたしました。
74	この計画では「里山環境保全計画」として、町田市北部丘陵のなど自然環境の意義を強調しているが、全体に違和感がある。 まずP.4「目的」に「モノレール」と「小田急多摩線」の延伸が謳われている。しかしP.8で示される様に、小野路・小山田地区は区画整理による団地開発が中止。人口増を前提とした「モノレール」「多摩線」延伸計画は実現困難となった。そこに、これら鉄道延伸が前提の計画は、北部丘陵について新たな都市開発が前提とされているか見える。 P.19 小野路、P.21 小山田の地域計画において	本計画は、「町田市都市づくりのマスタープラン」や「第3次町田市環境マスタープラン」を受け、現状で手入れがされず放置された山林や農地を多様な主体による連携・協働によって活用を図り、貴重な資源として将来にわたって保全していくことを目的として策定します。 里山環境を活用する担い手につきましては、市民団体によるボランティア活動を排除するのではなく、企業をはじめとする多様な担い手を受け入れる仕組みの構築をすすめてまいります。

	<p>ても「モノレール」「多摩線」延伸と「都市計画道路」建設が前提となっている。橋脚建設には 25m 幅道路が必要なモノレールや高架・トンネル等巨大な建設となる多摩線による環境への悪影響を懸念すべきでないか。</p> <p>さらに地下トンネル掘削工事となる「リニア中央新幹線」についても P4. には「都市部からのアクセス向上」の利益のみ記され、地質や地下水脈などの悪影響も問題にしていな</p> <p>い。</p> <p>これらを合わせると、これは里山の「保全」と言うより「観光開発」に近い印象を与える。</p> <p>また、P. 31 などでは里山環境「活用」について「民間企業」連携を提言。もし企業重視となれば、これは市民ボランティアを実質排除し園芸業者に管理を任せ「野津田公園バラ園移転事業」の二の轍を踏む。市が真に市民協働を実現しようとするなら、まず市民と協議の場を持ち、里山をどう管理するか話し合ったうえで手入を任せる等のやり方が必要ではないか。</p> <p>経緯は様々なれど開発等を免れ残されてきた町田市北部丘陵などの緑は、周辺開発の中で貴重なものなのは確かだ。それを「保全」するのであれば、安易に開発を前提とする計画に成らぬように、市民の声を直截取り入れる方法でじっくり進めていただきたい。</p>	<p>また、事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p>
75	<p>対象となる小山田地区のエリアは、市有地が約 100ha 位あり、民有地と混在している。市として纏まった Project を実施する合、スムーズに物事がすすみづらい。</p> <p>ある区域を定めて境界測量を実施し、民有地と交換して集約を実施し、スムーズな保全活動を行うべきである。</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
76	<p>道路も接していない調整区域内の土地は、所有していても殆ど将来性がない。相続事案が発生しても、相続したくない人がいるはずで</p> <p>す。そして市や国に寄付をしたい人がいるは</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

	<p>ずです。</p> <p>寄付したい場所の境界測量を実施し、市または国への寄付作業を公費で実施し、市有地化することにより、結果として本保全計画が効率的に実施されるのではないのでしょうか。</p>	
77	<p>最近ではテレワークなどが進み、都心に近い自然豊かな里山環境での居住・体験などのニーズが増えている。</p> <p>町田市が計画する小田急多摩線小山田新駅周辺のまちづくり（都市づくりマスタープラン）で、里山の活用保全と共存共栄したまちづくりができれば、アフターコロナ時代の理想的なまちづくりの先進事例となると思う。</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
78	<p>・（仮称）町田市里山環境活用保全計画策定検討委員会の委員ではないまちだ結の里ではありますが、里山活用・保全を担当する団体の一つでもありますので、素案がまとまる前の段階での事前ヒアリングを次回は検討してください。</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
79	<p>これまで、市から送付された自然と農業などに関するアンケート（題は覚えていない）に2度程回答したことがあるが、それらは活用されているのだろうか。今回の保全計画も市が何をやりたいのか、保全なのか、開発なのか、何か作っても活用がうまくない市の事業だ。色々勘ぐってしまう。</p> <p>三輪のビジターセンターは何の為に作ったのか。立派な公衆トイレの役しか果たしていない。</p> <p>受付のおじさんも退屈そうで気の毒。せめて、全体がわかる大きな地図や地域の自然誌、歴史の掲示があれば、少しはビジターセンターを名乗れますが。（しばらく行ってないので、変わっていたらすみません。）</p> <p>小野路で里山保全活動を行っている。近頃は散策の人に道を訊かれる事が増えた。大概がスマホの地図しか持っていない。交流館には</p>	<p>ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p> <p>本計画は、現状で手入れがされず放置された山林や農地を多様な主体による連携・協働によって活用を図り、貴重な資源として将来にわたって保全していくことを目的として策定します。</p> <p>来訪者の民有地への立ち入りなどは、地域の課題として認識しており、案内板の設置など、本計画の中で対応していく予定です。また、里山環境の活用にあたっては、団体や企業など多様な主体による連携を想定していますが、事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p>

	<p>置いてあるようだが、外部の人向けに案内図を発信してほしい。</p> <p>民地や私道への入りこみも多い。近頃は知らない人が多くて、散歩に出るのが怖いと地元のおばあさんが言っていた。小野路は良い所だが、車が無い私には通勤に支障があって住めない。住人を増やすためにはこれがネックだろう。</p> <p>交流館あたりに駐車場があればという声もあるが、これには賛成しかねる。ただでさえ、あの辺は圏央道が出来てからは抜け道になって渋滞している。薬師池などをめぐるバスを走らせてほしい。</p> <p>(ゼルビア渋滞も何とかして！)</p> <p>保全活動に企業を使うのは反対。以前、都が依頼した業者万松寺谷戸に本来あの辺にはなかった樹を植え、あわてた都が、地元住民に管理を頼むことになった。</p> <p>竹材を市役所や関連施設で使うプラスチック製品の代替に出来ないものか？</p> <p>市が行った小野路・小山田のアンケート結果を読んだ。</p> <p>様々な考えがあることを知った。幅広い意見を活かすためには、エリア分けしていくことも必要かと</p> <p>感じた。例えば、奈良ばい宿通り、小山田緑地などはある程度、人が集まることを容認。(寺家のように)。五反田谷戸などは貴重生物も多いので、ほどほどになど。</p>	
--	--	--

② 里山環境の保全に関すること (9件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
80	<p>里山という名前を使って自然を人間の経済の枠にはめ込むことに主眼が置かれていて森などの自然との共存共在の在り方が見えてこない。本気で町田の自然との共存共在を考えるなら「地域の取り組みテーマ」なりに</p>	<p>本計画は、「町田市都市づくりのマスタープラン」や「第3次町田市環境マスタープラン」を受け、現状で手入れがされず放置された山林や農地を多様な主体による連携・協働によって活用を図り、貴重な資源として将来にわ</p>

	<p>森林保全とかの用語を入れるべきと思う。この視点が弱いから自然は次第に後退し、ひいては自然破壊が進行したのではないだろうか。</p>	<p>たつて保全していくことを目的として策定しています。</p> <p>自然との共存共在については、「第3次町田市環境マスタープラン」と連携し、取り組んでまいります。</p>
81	<p>町田市の忠生地区に住んで50年以上になりますが、北部丘陵は知っていてもなかなか里山に入る機会がありませんでした。</p> <p>たまたま、10年程前、多摩市主催の里山を歩く見学会に参加しましたが、コースは全て町田市域で小野路の各谷戸、万松寺、奈良ばい谷戸や里山でした。</p> <p>すでに、多摩ニュータウンには谷戸や里山がなく、貴重な農など環境が残っているのは、町田市だどつくづく感じた次第でした。</p> <p>豊かな緑の自然環境の保全は、人が手を入れないと維持できません。</p> <p>都心から30km圏に位置し、市内外から訪れやすい北部丘陵などは、交通便利向上の多摩都市モノレール、小田急多摩線の延伸、リニア中央新幹線橋本（神奈川）駅開設促進を図りながら、多くの人の集客と利活用によって、保全されることを望みます。</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
82	<p>P10 (3)市全体でみどりを活用しながら総量を減らさないための取組を進めている</p> <p>・「みどり」の中身について、公園などの画一的なみどりと再生・維持されている里山の豊かな植物相のもたらすみどりが区別されていません。本計画（案）では生物多様性の重要性について言及されていませんが、里山の育むみどりは生物多様性の維持に貢献し、自然との共生を可能にすると考えますので、その点も明記してください。</p>	<p>本計画は、「第3次町田市環境マスタープラン」と連携し、事業を進めてまいります。</p> <p>生物多様性の保全につきましては、「第3次町田市環境マスタープラン」において、施策として位置づけ取り組んでまいります。</p>
83	<p>P39 3 「町田市の役割」</p> <p>・農地、山林など相続の際に、里山の一部が資材置き場、駐車場や墓地などとなれば、里山の資源としての価値は大きく損なわれます。未来の町田市民に緑地をしっかりと残すた</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

	<p>め、市として緑地保全地域の指定、相続への対応、大手民間業者が所有する土地の買い取りや借り受けなど市でなければ出来ない制度面からの保全について検討してください。</p> <p>「奈良ばい谷戸」について、都市緑地法に基づいた特別緑地保全地区の指定に向け東京都と協議してください。</p> <p>P10 「(3)市全体でみどりを活用しながら総量を減らさないための取組を進めている」、P12「(4)人口減少社会での土地利用への変化への対応」の具体的な方策の一つになることを期待します。</p>	
84	<p>・現状の農業に関わる方の中でも、今の農業形態から里山の維持・保全を伴うような農業へ移行されたい方もいらっしゃると思います。それらの方に農業研修ができるような仕組み作りを市が主導的に取り組むことを提案します。(伝統的な農的管理手法を伝承する教育・研修の場の構築等)</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考とさせていただきます。</p>
85	<p>P18-P25 (2) の①自然環境の項目として、地形、景観だけでなく、「生物」の項目も必要だとおもいます。里山の活用保全計画なので、基本情報となる生物情報を踏まえたうえでの活用、保全となるのではないのでしょうか。町田市の生物相調査結果に基づき、説明してください。資料編に町田市の生物の一覧表があるとよいと思います。</p> <p>「生物」の項目は、具体的には、雑木林はクスギ、コナラが主体でありいずれも高木、老木化していること。雑木林の管理が行き届かず、カシ類などの常緑樹林に遷移しつつあるもの、モウソウチクの拡大、林内にアズマネザサが繁茂しているところが多くなっていること。これにより、多くの林床植物が姿を消し、ラン類や春植物、地域に特徴的なタマノカンアオイなど、散策者に人気のある植物が減少していること。動物相は食物連鎖の頂点にあるオオタカ、ノスリやフクロウ等の猛</p>	<p>本計画は、「町田市都市づくりのマスタープラン」や「第3次町田市環境マスタープラン」を受け、現状で手入れがされず放置された山林や農地を多様な主体による連携・協働によって活用を図り、貴重な資源として将来にわたって保全していくことを目的として策定します。</p> <p>生物多様性の保全につきましては、「第3次町田市環境マスタープラン」において、施策として位置づけ取り組んでまいります。</p>

	<p>禽類が生息すること。タヌキやイノシシなどの哺乳類はいまだに多く見られるが、キツネはめったに見られず、一方、外来のハクビシン、アライグマが増えていること。また、里山での人の活動が減少したことによりカラス類が増加し、雑木林の管理が行き届かないため外来のガビチョウが増えていること。また、カブトムシやクワガタ類等子どもたちに人気のある昆虫が減少していること。谷戸では湿生、水生の動植物が多くみられるがその種類数は減少しており、ミズニラ、ホシクサ、タコノアシ、ミズオオバコ、オオニガナ、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、ホトケドジョウ、ゲンジボタル等の希少種が見られること。雑木林、谷戸いずれも昔ながらの営みを継続することにより、例えば雑木林ではラン類やスマレ類、谷戸では春植物や上記生物類、特に水田を再生することによりミズニラ、ミズオオバコ、ホシクサといった水生植物が再生すること。大戸緑地のユクノキ、タゴガエル、多摩境のホシザクラ、小山田・小野路の谷戸田の水生动植物などはこの地域を特徴づける生物であること。以上のような内容を書かれてはいかがでしょうか。</p>	
86	<p>p. 34-35 小野路エリア 小山田エリアとも共通ですが、谷戸の水田再生がプロジェクトに明確に組み込まれていません。先にも述べましたが、水田を再生することにより、ホシクサやミズオオバコなど今日では希少種となってしまう植物が復活してきます。これらは埋土種子が発芽しているのではないかと考えておりますが、数年続けただけではすぐ消えてしまい、やがては埋土種子の発芽能力も失われてしまうと思います。これら希少種など特定の生物種を復活させるということが主目的ではなく、多様な動植物が生育、生息可能な環境、特に湿地環境を永続的に確保する仕組み、つまり昔ながらの田んぼの営み</p>	<p>本計画は、現状で手入れがされず放置された山林や農地を多様な主体による連携・協働によって活用を図り、貴重な資源として将来にわたって保全していくことを目的として策定し、「第3次町田市環境マスタープラン」と連携し、事業の推進を図ってまいります。また、ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考とさせていただきます。</p>

	<p>を持続的に行っていくプロジェクトが必要かと思います。</p> <p>近年は、水田での麦作も始まっています。「豊かな自然・歴史資源と農環境を活かした地域の賑わいの創出」をプロジェクトとして提示し、この一帯を環境・食農教育の拠点として、また、農を通じた社会問題の解決（子育て支援、世代間交流、引きこもりや自立支援、等々）の場として賑わいを創出してはいかがでしょうか。</p>	
87	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京・町田発『新しい里山』づくりオンラインシンポジウム」を拝聴しました。林業地域における先行事例を紹介していただき、大変勉強になりました。しかし、シンポジウムは林業的視点に終始していたことが大変気がかりでした。町田市は事例を紹介された地域とは異なり、林業が盛んではないうえ山間地でもありません。町田市の里山について考えるのであれば、都市部に近い地域の事例収集も必要だと思います。</li> <li>・里山管理を計画するのであれば、まずどのような里山環境を目指すのかを考える必要があります。そのためには、まず当該地域の自然環境を把握するべきではないでしょうか。対象地域で自然環境調査（動物相、植物相、植生等）を実施することがベストですが、少なくとも当該地域でこれまでに実施された自然環境調査のデータ等を収集整理する必要があります。町田市はこのような自然環境調査にはあまり熱心ではないので、これを機に情報の収集・整理をしていただきたいと思います。</li> <li>・町田市里山環境活用保全計画（案）について、生態系や生物多様性の視点が不足しているように感じます。里山環境活用保全計画の検討過程において、生物分野の学識経験者にも参加してはいただけないでしょうか。</li> <li>・市ホームページ「(仮称) 町田市里山環境</li> </ul>	<p>本計画は、現状で手入れがされず放置された山林や農地を多様な主体による連携・協働によって活用を図り、貴重な資源として将来にわたって保全していくことを目的として策定し、「第3次町田市環境マスタープラン」と連携し、事業の推進を図ってまいります。生態系の保全や生息状況の把握・公表につきましては、「第3次町田市環境マスタープラン」において、市の取組として位置づけ進めてまいります。</p> <p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

	活用保全計画策定検討委員会の開催経過」において、議事内容が概要しかわかりません。議事録も掲載していただけないでしょうか。 ・募集期間が短すぎます。	
88	水路の整備、管理の徹底による農業用水と地域の動植物を保護に資する。 特定農地貸付法による農地の貸付を推進し、調整地区内の農地荒廃を防止する。	農地の貸借につきましては、貸借に関する各法律に基づき、「第4次町田市農業振興計画」と連携し、対応してまいります。 また、生物多様性の保全につきましては、「第3次町田市環境マスタープラン」において、施策として位置づけ取り組んでまいります。

### ③ 里山環境の活用に関すること（14件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
89	町田市里山環境活用保全計画（案）についてですが、非常に素晴らしいことだと思っております。 是非市民ボランティア、企業などの協力を多く得られるような旗振り役を行政側で取ってもらいより良いものにしてください。 読んでいて一つ思ったのは、再生可能エネルギーの活用をもう少し強く考えても良いかと思いました。 カーボンフリーが当たり前の世の中になってきています。山林の環境を循環型の社会に結び付けるものとして、「バイオマス発電」などに積極的な企業を誘致するなどを考えてみたらいかがでしょうか。 再生可能エネルギーの中には、太陽光発電、風力発電などありますが、森林と相性が良いのはバイオマスだと思います。 竹林の伐採で出てくる不要な竹をバイオマスボイラーや発電に利用しようと試みている企業もあると聞きました。 これからの技術ですので、協力して進めて情報発信をするのも良いかと思えます。	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。 なお、再生可能エネルギーの活用につきましては、「第3次町田市環境マスタープラン」において施策として取り組んでまいります。
90	町田市大蔵町に住み、相原町に仕事場を持つ	ご意見につきましては今後の事業をすすめる

	<p>ています。</p> <p>町田の良さは都心への通勤もできて、かつ市内の奥に行くと自然がふんだんに残っているところだと思っています。</p> <p>田舎の良さを求めて東京から離れた地方に移住される方もいますが、町田では都会と田舎の良いところ取りができて、満足しています。</p> <p>里山を楽しめる良いコンテンツを用意して発信していけば、近隣の川崎・横浜などからも自然を楽しみたい人たちを呼び込むことが可能だと思います。</p> <p>その場合は、労働ではなく楽しみとして「里山と少しだけ関わりたい」という人たちを、うまくつないでいくことが大切です。</p> <p>また、私は木を使う仕事をしていますが、現在は岐阜などから仕入れた材木を使っています。</p> <p>地元の木を無駄にすることなくうまく使うことができれば良いな、という思いはいつもあります。</p> <p>例えば木を使ったものづくりの体験も、店で買ってきた板ではなく「すぐその山に生えていた木」で作るものの方が、強い印象を与えることができます。</p> <p>もっと長いスパンでの里山体験としては、実際に木を伐採する→板に加工する→できあがったものを家で使う、というのも楽しそうです。</p> <p>個人でできることは限りがありますが、市でこうした取り組みが進むことで力が集まり、よい循環が生まれるのではと期待しています。</p>	<p>るうえでの参考にさせていただきます。</p>
91	<p>とても興味深く町田市里山環境活用保全計画（案）を読ませていただきました。</p> <p>地域の課題については直面されている方や住民の方が暮らしにくくならない対応はぜひ進めて頂きつつ、活用に焦点をあててコメ</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

<p>ント、アイデアを書かせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山をみんなで活用する取り組み（里山シェア）</li> </ul> <p>シェア畑、シェアキッチン、シェアオフィス、シェア工房など</p> <p>みんなでシェアして使ってみて新しい活用スタイルを提供するなど。</p> <p>シェア畑で作った野菜をシェアキッチンで調理して、ケータリングカーでシェアオフィスや街なかに届け近くに里山あること、活用できることを知ってもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイルの多様化の基地、まちだ里山</li> </ul> <p>価値観やライフスタイル・暮らし方が多様化している層を当て込み、新しいスタイルを積極的に実践する・推進する町田を発信する。</p> <p>（里山の元で新しいライフスタイルを実践＝里山からリモートワークなど）</p> <p>また、新しいスタイルによる学びと新しいワークスタイルへの積極性を打ち出す</p> <p>例) 地元のレストランのシェフに地元食材の料理を教えてもらう学び講座</p> <p>    シェア工房でまちだ里山クラフトの小物を作ってハンドメイドの副業にチャレンジ!</p> <p>その活動をまちだ里山発の野菜、料理、クラフト、遊びなどに「まちだ里山 XXX」という名称を使えるようにして活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山があるから住みたい街</li> </ul> <p>家の近くに海がある、家の近くに温泉がある、家の近くにおいしいレストランがたくさんある、家の近くに J リーグのチームがある。。。などと同様に「家の近くに里山がある」という価値は、そこに住んでみたいなと思えるメリットになると思えます。</p> <p>不動産屋さんがそれをアピールポイントに使いたいと思える連携・協業を進めるのもよいかと思います。</p>	
--	--

92	<p>地域にとって里山があることで、収益が得られる取組が欲しい。地権者や地元団体にとって、モチベーションも上がり協力者も増え、持続可能な活動へ誘導できる。</p>	<p>里山環境の活用が、地域の収益や雇用の促進など、地域の利益につながっていくことが重要であると認識しております。地域の住民や団体のモチベーションの向上が図られれば、結果として持続可能な保全につながると考えております。</p>
93	<p>昨年から町田マウンテンバイク友の会に入会し小山田の里山で親子でマウンテンバイクに乗って楽しんでいます。</p> <p>最近のマウンテンバイク事情として本格的に乗るコースは多いのですが、小学生の子供とちょっとしたトレイルを楽しむ環境が非常に少ないです。</p> <p>でも小山田や小野路などには近所に行く感覚でトレイルを楽しむ環境が揃っています。そのためにも今ある環境をさらに整備してマウンテンバイクを乗る人たちが自然と集まる環境を作れると良いと思ってます。</p> <p>ただ残念なことに小山田や小野路の里山近辺にはコンビニなどが少なくトイレなど利用ができる場所の整備は必要じゃないかと思ってます。</p> <p>私は町田市金森が実家のため幼少期から町田で過ごしております。</p> <p>最近緑が減ってきて住宅に変わり子供時代に遊んだ林などが少なくなり林で遊んだりカブトムシやクワガタも少なくなってきました。</p> <p>小山田や小野路の里山をうまく活用して子どもたちに新たな遊びを提供できる環境をこれからも作っていただけるようお願いしたいです。</p>	<p>里山環境を活用するうえでトイレや売店などの整備は課題の一つと認識しています。</p> <p>事業の実施にあたりましては、利用者だけでなく、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p>
94	<p>15日の講演パネラーの古川と一緒にクワガタを捕まえてた友人です。</p> <p>里山の一部を、周回路を作り、マウンテンバイクなど自転車で楽しめる場所を作ってもらいたいと思います。幼児はストライダーを走らせられるようにするなど、幼児から</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

	<p>大人までが里山の中で一日中、自転車に乗り楽しめるスポットを希望します。自分は現在町田市小山町で会社をさせていただきながら、明星大学自転車競技部の監督を16年させてもらっております。町田市の生んだスター、佐藤琢磨とも高校時代より一緒に自転車に乗っておりました。自転車界に精通はしておりますので、何かお役に立てそうで有ればおっしゃってください。古川経由でも、すぐ連絡取れますので、よろしくお願いします。</p>	
95	<p>「SDGs」と「土地利用、維持管理」、「自然との共生」、「社会」の観点から、私なりの考えをコメントいたします。良い里山の活用・維持・保全に関して、何か役に立てることができればと考えています。私の紹介をさせていただきます。町田市には、1993年の就職を期に転入しました。東京都および神奈川県内の事業所にて従事、2011年の東日本大震災のときのペット事情を知り、一念発起で動物関連の仕事につくべく退職し、町田市内でドッグトレーナーとして2014年に起業しました。屋号は「わくわく」</p> <p>新型コロナ感染拡大の直前には、町田市金森地区のペット同行避難訓練や、町田市保健所主催のペットのしつけセミナー講師をしたりしました。(その後は、感染拡大等の影響で残念ながら開催できていません)</p> <p>以下は、ドッグトレーナーとして、ペット事情を取り巻く環境を考慮しての観点での、コメント(思いやご提案)になります。よろしくお願いします。</p> <p>①里山の土地利用の一環として、ドッグランの開設を所望します。運営にあたっては不特定多数の事由利用ではなく、下記の観点からの活用を考えます。</p> <p>②①の活用にあたり、例えば小野路里山には</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

<p>多くの畑や牧場がありますが、それらを利用する方々でかつ犬を飼っている飼い主さんの利用を見込みます。</p> <p>犬を飼っている方の多くは、畑で農作物を作っている、もしくは作りたいと思っている方もいます。</p> <p>里山に見られる畑の所有状況や使われ方は、私自身きちんと把握していませんので、勝手な考えではありますが、貸農園や所有などで使える状況下で、かつ犬を飼っている方で、畑作業中は留守番や車内待機をせざるを得ない場合に、ドッグランがあれば、安心して愛犬を連れて行けるし、畑などへ出向く機会も増え、畑の管理、強いては里山全体の管理そのものにつながると考えます。</p> <p>③ドッグラン自体は、やはりきちんと管理されなければなりません。</p> <p>それは、私自身も関わりますし、利用者自身にも参画していただくことを想定しています。</p> <p>かつ、ドッグランの周囲、畑や里山全体の見回りやゴミ拾い（お散歩でもできる）、周囲にお住いの方や里山を訪れる方たちとの交流（挨拶などの声掛けや情報収集、それらによる効果的な防犯対策など）も行なっていく、持続的な里山維持を図っていくことも想定しています。</p> <p>ドッグランの維持は、定期的な清掃、草刈り、柵などの補修といったことはもちろん、どうしても犬の習性の影響で排泄（おもにオシッコ）したり、それに伴うニオイの発生は考えられるので、散水や、土化しやすい地面への芝や草を植えたりするなどのことは考えるべきと思っています。</p> <p>そのための費用や設備などは、維持費や協力金（利用料など）といったことから考えないといけないと思います。</p>	
---	--

例えば草刈機や落ち葉を掃くブロワーは私も持っていますし、その他利用する方たちの畑仕事に関わる道具や知識の利用で、基本的にはボランティアの形での参画になるのではと考えます。

④畑作業中のドッグランを利用する犬の扱いについては、まずは基本的にはドッグトレーナーである私が面倒を見る形で良いと考えます。

仕事の一環ではありますが、収入として得るモノとは考えず、しかし大切な命をお預かりして、安心安全を確保、もしもの事態に備える（人への危害や器物損壊など）ための保険として、その保険料（1回500円などと少額）のみを徴収し、それら保険料は維持費に回すという考えです。

ただし、吠えすぎたり、犬同士のケンカなど、問題となる事象が発生する可能性も考えられますので、その点はドッグトレーナーとして、有償無償を含め、対応を考えていきたいところです。

ドッグトレーナーが常駐することによって、利用者も安心して預けられるなど、より持続できる考えです。

⑤ドッグランのための土地は？ 有償無償、購入賃貸に関わらず、まずはご提供可能かどうか、その他立地、利用条件など関われる部分があれば関わっていききたいですし、ご紹介などいただければ幸いです。

畑との行き来のためにやはり車の利用が考えられるので、車も余裕をもって停められる、可能な限り水道も利用できる 条件が揃えばうれしいですね。

以上になりますが、

	<p>私自身、愛犬を連れて小野路・野津田公園や都立小山田緑地、相原の七国峠周辺、多摩丘陵・よこやまの道、鶴川の尾根緑地、成瀬の尾根緑地、城山付近、鶴川三輪から寺家に抜ける道など自然いっぱいのコースを歩くことが多々あります。</p> <p>そういったところで感じるのは、やはり緑は良いな、自然がまだまだたくさん残っている町田市は人にも犬にも優しいな、そして何よりこの自然をしっかりと残して欲しいな、残したいなと感じています。</p> <p>そんな思いを、今回の町田市里山環境活用保全に通じることができれば、例え実現はできなくとも、何かと保全につながる活動などお手伝いもできればと思っています。</p> <p>大変な時勢のときではありますが、よろしくお願ひいたします。</p>	
96	<p>P30「重点事業 山林と農地の再生と活用」のうち、「山林と農地の再生/不法投棄など生活環境の悪化や生態系の保全の妨げの要因となっている山林や耕作が行われていない農地の再生に取り組み」は重要な取り組みと考えますが、山林の間伐だけでなく次の取組みも必要と考えます。これらは、再生するだけでなく活用の工夫も検討します。</p> <p>○竹林の除伐と雑木林の再生 竹林は1回の除伐では再生し、もとの竹林に戻ってしまうため、数年にわたり継続した除伐と除伐後に生育するコナラ、クヌギ、エノキ、カラスザンショウなどを丁寧に育て、雑木林を再生していく。</p> <p>○不法投棄地を花咲く場所に再生 不法投棄地のごみは撤去しても、投棄が繰り返されることが多いので、花の咲く場所などに再生しごみの投棄をしにくい場所としていく。なお、散策路及び周辺を心地よい場所として維持管理していれば、清掃活動をする必要はほとんどありません。不法投棄の場所</p>	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。

	<p>だけでなく、里山環境にふれる場所は人にも生きものにも心地よい場所もしていくことが重要と考える。(生きものにとって心地よい場所は、人にはそうでなく思える場所もあるので、生きものの生息場所である情報の発信をしていく)。</p> <p>○耕作が行われていない農地の自然再生 休耕田は、水田として再生することも考えられるが、生きものの生息・生育場所として、従来の水田の構造を再生・維持していく。</p>	
97	<p>町田マウンテンバイクの会で小山田周辺の里山保全の作業をさせてもらいました。自然残る里山の環境が素敵は場所です。こんな素晴らしい自然が身近にあることに驚きました。ぜひこのような自然あふれる里山環境を残して欲しいです。里山の道は歩行者もいるためあまりマウンテンバイクでは走らないようにしていますがマウンテンバイク環境としては最高の場所です。事故をなくすため歩行者とは別のマウンテンバイク用ルートようなものができたら良いかと思います。使われていない農道、山道をうまく活用すれば里山のマウンテンバイク周回ルートのようなものが実現できるのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>
98	<p>p. 30 重点事業 1「山林の間伐を実施」「木材搬出のための作業路を整備」とありますが、間伐、搬出後の木材の活用方法が書かれていません。そもそも間伐という用語は林業的な意味合いが強いのですが、これは里山の活用保全計画なので、間伐というよりは伐採、もしくは皆伐がふさわしいのではないかと思います。そして、伐採、搬出したクヌギ、コナラをはじめとする広葉樹をどう有効活用していくのか、ある程度具体的に示すことはできますでしょうか。</p> <p>里山の新たな循環サイクルの構築、持続可能な保全に取り組むのであれば、市内の森林の大半を占める広葉樹林の材の活用を検討、実</p>	<p>ご意見を参考に文言を修正いたします。</p> <p>また、山林の再生により発生した木材の活用につきましては、木工体験教室などによる活用や玩具、文房具、食器、薪など幅広く検討していく予定です。</p> <p>ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

	<p>現していく必要があると思います。p. 32 に製材とありますが、広葉樹では困難なのではないかと思います。もちろん製材という方向も検討していく必要があるかと思いますがそれだけではなく、持続可能なエネルギー源として活用しこれを市民の暮らしに取り込んでいくことをまずは検討する必要があるのではないのでしょうか。化石燃料の消費を減らし、里山再生をボランティア活動頼みではなく、経済活動として雇用を創出していかなければ、新たな循環サイクルの構築、持続可能な保全は困難であると思います。</p>	
99	<p>1) 1950 年台から始まる「燃料革命」は農山村の里山環境を大きく変貌させた。これは大きな社会現象の変化であり消費者がより熱量が大きく使い易いエネルギーを求めて化石燃料に依存していった為、「薪・茂の需要低下」→「雑木林に関わる労働者の失業」→「農山村労働力の都市へ流出」→「農山村の過疎化」→「農林業全体の衰退」と言う現在の姿となった。現在は価格面で競多力のない国内の建材はもとよりチップまで外国産を輸入している。</p> <p>2) 里山環境の再生は里山林の活用:少し乱暴な話になるが里山林をコナラ、クヌギ等ブナ科の落葉広葉樹と、人工林で育った痩せた建築材に向かない杉檜常緑針葉樹等の間伐材も薪資源として炭化炉で木炭にする。資源の賦存量を再検討する事や乾燥機、チップパーなど関連機器に就いても人手不足を補うため考慮すべきである。国立法人森林研究所の研究者によると燃料として薪ボイラーの使用は化石燃料に比べて CO2 削減効果が優れているという報告もある。</p> <p>3) 地球温暖化対策、気候変動問題等で地域内の学校や企業の CSR 活動の置ける環境教育の実践フィールドが必要となる。この地域を「里山と自然」モデルとして町田から発信し</p>	<p>ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p> <p>本計画は、現状で手入れがされず放置された山林や農地を多様な主体による連携・協働によって活用を図り、貴重な資源として将来にわたって保全していくことを目的として策定します。</p> <p>伐採により発生した木材につきましては、幅広く活用の可能性を検討していく予定です。</p>

	<p>たい。</p> <p>4) ナラ枯れ対策:近々の問題として皆伐の必要もありそうな里山林が今回対象の 4 地域に発生していると思われる。近接する東京都緑地保全地域「七国山」では調査の結果この 1 年間で 71 本が 160 本とほぼ倍加している。汚染速度が予想以上に早くこの現象は多摩丘陵全般に共通しているであろう。ナラ枯れによる間伐材も木質バイオマス処理に含まれる。</p> <p>☆具体策</p> <p>1) 「森の守り人」編成統括(すべての里山林管理関係者) 計画の進行管理は対象地域 4 つを統括委員会が結成される原案に賛同する。別名でも可。地元住民、市民団体、中小学校、高校、大学、公共団体、地域内企業などへ声掛けしてワンチームで活動できる場。</p> <p>2) 知りたい人・知る人・楽しむ人・楽しむ場を工夫してイベントの開催する人如何に集めるか、方策を「森の輩り人」を中心に推進する。</p> <p>3) 林地残材や間伐材の処理 カーボンニュートラルな木質燃料を地域で積極的に利用する事は地頭に根ざした脱温暖化・環境共生社会の創生の為必要である。地域に眠る再生可能エネルギーの本質資源を熱又は電気エネルギーに転用し木質バイオマスボイラーや小型バイオマス発電装置に活用する。これはSDGsの達成に持続可能な開発実証ができる。</p>	
100	<p>地元で活動されているマウンテンバイク団体を通じて、小山田でホタル鑑賞会に参加したり、サツマイモ掘りやジップラインを体験させてもらいました。</p> <p>地元精通した人にガイドしてもらえたので、安心して里山を楽しむことができました。四季を通じてまた是非参加したいです。近くにトイレや休憩場所がもっとあると良かったです。</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

101	友人にお誘い頂き伺いました。 小学校一年生の息子は自然が大好きでジップラインまでの道のりも探検家気分で探索できました。 ジップラインもとても楽しむことができました。くさばに、湧水に大喜びでした。 近隣にトイレ、手洗い場があるとたすかります。	ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。
102	設備の問題です。私どもでもさまざまなイベントに取り組んでしますが、水がないことに不便を感じています。バイオトレイを増やす、水場を増やす、また駐車所を増やすなど里山の景観との兼ね合いもあると思いますが、ある程度は設備を整えることが里山での活動を支えるのに不可欠と考えます。	ご意見につきましては、今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。

#### ④ 都市基盤の整備に関すること（11件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
103	小山田地区には、調整区域が多く、また広い都立小山田緑地があり、緑地が多く、その中は谷戸の部分が大部分を占めている。広域の農地としての利用には不利である。従い、耕作放棄地も目立ち、かつてのような里山を維持するのは困難である。多摩都市モノレールの延伸やリニア新幹線駅が橋本に出来ることから、小山田、小野路区域にはそれを見据えて緑豊かな富裕層を対象にした高級住宅街を計画するのはどうでしょうか。	市街化調整区域については、市街化を抑制することを基本としています。 多摩都市モノレールの延伸に係るまちづくりにつきましては、地域の方々とともに検討を進めてまいります。
104	里山環境の保全のみならず、市に要望している狭あい道路の整備を実施するよう調整して頂きたい。道路を整備することにより、里山環境整備作業も進みます。	都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。 また、狭隘道路の整備につきましては、引き続き関係機関等との協議を進めてまいります。
105	基盤整備も大変重要であり、事業化されている都市計画道路 3.4.40 の作業を早く進めるように、東京都への働きかけや調整をして頂	都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。

	きたい。	また、都市計画道路 3・4・40 号線の早期整備につきましては、事業主体である東京都に引き続き要請してまいります。
106	<p>P19(3)小山田地域の課題が 4 項目あり、そのうち③と④については本計画でその取り組みを示しているが、①、②についてはまったくその方策を挙げていない。町田市としてどのようにしようとしているのか見えない。①②の都市基盤整備計画を都市づくり部に委ねてしまっているのは、居心地のよいのは「訪れる人」で、住んでいる人は居心地の悪い環境になってしまうのではないか。たとえば都市計画道路 3・4・40 号線(～多摩ニュータウン堺)の整備は、町田市として東京都に優先的に要望してもらえるのか?そうしなければ“絵に描いた餅”に終わってしまうと思う。そういう意味では町田市の本気度が試されている。里山環境の活用保全は誰もが異論ないところだが、そこに居住する市民の不便や負担だけを強いるべきではない。都市計画道路 3・4・40 号線(～多摩ニュータウン堺)の東京都への強い要望や準幹線道路(忠生 579 号線等)、狭あい道路の整備を早急に進めて欲しい。</p>	<p>都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。</p> <p>また、都市計画道路 3・4・40 号線の早期整備につきましては、東京都に引き続き要請し、準幹線道路及び狭隘道路の整備につきましては、関係機関等との調整を進めてまいります。</p> <p>なお、本計画における事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p>
107	小田急多摩線の小山田新駅や多摩都市モノレール小山田緑地新駅の早期実現を積極的に進めるべきである。	都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。
108	<p>里山環境の活用保全は、地域住民だけで出来るものではなく、活動団体や企業等を地域に呼び込むことが必要である。</p> <p>このため、小田急多摩線小山田新駅や多摩都市モノレール小山田緑地新駅の早期実現、周辺道路の早期整備を着実に進めるべきである。</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p> <p>都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。</p> <p>また、道路の整備につきましては、引き続き関係機関等との調整を進めてまいります。</p>
109	<p>里山環境の活用保全は、大切なことではあるが、そこに居住する市民に不便や負担を強いてまで行うべきものではない。</p> <p>市内でも道路状況が最も劣悪な小山田エリ</p>	<p>事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p> <p>都市基盤の整備につきましては、「町田市都</p>

	<p>アについて、都市計画道路（町田3・4・40号線の多摩市までの開通等）・準幹線道路（忠生579号線等）・狭あい道路の整備を早急に進め、その上で居住する市民と一体となって進めるべきものである。</p> <p>都市基盤整備が進まず生活が不便なままでは、住民も減り、活用保全のための人員も呼び込めず、結果として荒廃が進んでしまう。</p>	<p>市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。</p> <p>また、都市計画道路3・4・40号線の早期整備につきましては、東京都に引き続き要請してまいります。準幹線道路及び狭隘道路の整備につきましては、引き続き関係機関等との調整を進めてまいります。</p>
110	<p>P40資料編が項目だけで内容が公開されていない。特に「3. 住民・来訪者の意識」はパブリックコメントを考える上でも重要な関連情報である。</p> <p>里山に近い住民の意識として、里山環境の活用保全のみに偏ることなく、道路・鉄軌道などの生活基盤・都市基盤整備を着実に進めていただきたい。</p>	<p>資料編に2020年度に実施した、住民・来訪者への調査の結果と概要を明示いたします。</p> <p>また、道路の整備につきましては、引き続き関係機関等との調整を進め、可能な対応を検討してまいります。</p> <p>事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働し、都市基盤の整備と連携して進めてまいります。</p>
111	<p>住む人（小山田地区）が居心地がよいと感じるのは、生活基盤、都市基盤の整備を着実に実行していくことである。このことに尽きる。特に小田急多摩線小山田新駅（仮称）や多摩都市モノレール小山田緑地新駅（仮称）、都市計画道路3・4・40号線等を早期整備を着実に進めて欲しい。都市計画道路3・4・40号線については、町田市としてどの都市計画道路より、東京都に優先的に推薦して欲しい。</p>	<p>都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。</p> <p>また、都市計画道路3・4・40号線の早期整備につきましては、東京都に引き続き要請してまいります。</p>
112	<p>小山田住民です。現状として小山田が抜け道状態になっている為、通行する車のキャパオーバーになっていると感じます。朝夕は渋滞も発生し歩行者の危険度もあがっていて住みにくい環境です。住民が住んでいて心地よいと思えない限り、訪れる人に対してウェルカムな気持ちにはなれないでしょう。ですので現在工事中の都計道3.4.40号線の早急な完成を望みます。</p> <p>3.4.40号線の早急な完成と同時に、地域活性化目的の物産販売等の出来る拠点の建設を望みます。</p>	<p>都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。</p> <p>また、拠点施設の整備等、事業の実施にあたりましては、事業の実施にあたりましては、地域と連携・協働しながら進めてまいります。</p>

	<p>意見交換をしている間にも自然の荒廃は進んでいます。時間が経過すれば経過する程、整備費用も時間もかかるものだと思います。小山田中部街づくり協議会や小山田の森委員会で実際に活動し、何をすれば住民が住みやすい環境なのか、活性化するのか、来訪者が増えるのか傾向は見えてきていると思いますが、やはり予算をかけて頂かないと実現は出来ず、小山田地域が自然と共に荒廃してしまいます。コロナ禍で方向性が見えない部分もありますが、確実に自然に対する需要は増えていると思いますので、早急に対応をお願い致します。</p>	
113	<p>P18-P19 小山田エリア</p> <p>小山田の里山環境保全については、地主の高齢化などで荒れていくことにより、地域が荒廃していくのであれば地理的な場所もよいので大切であると認識している。</p> <p>ただ、そこに生活している市民の生活環境をおざなりにしての環境保全は納得いかない。幹線道路から入っていく道は、180cm幅の狭あい生活道路で、待避所もなくただでさえ曲がりくねっていたり上手があり、通常の道より右に出たり左に出たりして通行している。緊急自動車の大型化により、救急車や消防のポンプ車は車幅 189cm ですすでに走行できない。</p> <p>高齢者送迎の車も 170～ 189cm であり、タクシーも 170cm を超えている。</p> <p>まず、このような直接生活に関係あるものを早急に改善しての住民一体となつてのものでなければいけないと思う。</p> <p>また、住居住民も高齢化が進んでいるが、幹線道路から遠く公共機関を使用するのも大変な地域のため、社会問題になっているが高齢者の自動車運転は生活には欠かせない。</p> <p>いずれ運転もできなくなるとここでの生活ができなくなる。</p>	<p>都市基盤の整備につきましては、「町田市都市づくりのマスタープラン」の方針に沿って進めてまいります。</p> <p>また、準幹線道路及び狭隘道路の整備につきましては、引き続き関係機関等との調整を進めてまいります。</p> <p>本計画における事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。</p>

	<p>であれば、居住地区、山林里山地区、農地地区と分け忠生 579 号線沿線を居住交換土地用地として取り組み、山間や畑の中の住民を移設し、交換した土地を農地や東京都小山田緑地に隣接しているのでそのまま緑地公園としては思う</p>	
--	--	--

⑤ 生活環境に関すること（3件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
114	<p>案の内容は、大変良い計画と思います。今後の計画実施に当たり、具体的な試案を提示して下さいれば良かったと思いますが、私がこの地に生を受け、今、気になった点について、記入させていただきます。</p> <p>地域に住み、先祖代々専業農家で現在も農業を続け、わずかな年金と合わせ生活を維持しております。子どもは勤めており、嫁は学生と共に、バイクと自家用車で通っています。緑は町の宝です。と言われました。どのような人がそのように思っているか知りませんが、畑や田を耕し、山林や水路、畦道、農道等の整備をし、毎日、維持管理に努めているのが現状です。このような状況にあって、地域に対し、この計画案は、期待するところがあります。地域内土地所有者として、次の項目について、具体的な方針と可能性を示していただければ幸いです。</p> <p>1 日常生活に必要な最低限の店舗（例。コンビニ等）、出店規制の緩和。</p> <p>2 調整地区内の営業用建築資材置場の運送用大型トラック等の規制強化又は禁止。</p> <p>3 調整地区内の宅地転用制度の緩和（条件、1～2親等までの居宅の建築）</p> <p>4 農地、山林にかかる固定資産税、相続税等の減額又は控除。</p> <p>（地区内土地所有者の土地管理及び維持費等。※地区内NPO法人に対する市の助成金</p>	<p>ご意見につきましては今後の事業をすすめるうえでの参考にさせていただきます。</p>

	有り) 5 通勤・通学路の整備促進による地域環境の安心安全の確保（遊歩道を含む）歩道の整備による歩行者安全確保。不審者からの子ども等を守る。	
115	P26V. 将来像「住む人も訪れる人も居心地のよいまちだの里山」は理解できるが、計画が進んでいくと外部の人の意見や意向が優先されるのではないかと危惧される。常に住む人の意見を第一位に者えて欲しい。それだけでなくとも現状、“犬の糞の散乱”、“ゴミのポイ捨て”、“敷地内の侵入”など住む人にとって居心地は悪くなってきているのは事実である。	事業の実施にあたりましては、地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいります。
116	里山沿道の既存不法投棄物（特に、草木に覆われている大型家電・家具など）の全撤去を実施すべきである。 不法投棄の被害者である地権者のみに、撤去費用の負担を負わせることなく、行政主導で、訪れる人を交えた「里山ごみ一斉撤去活動」などを取組として定期的に行っていくべきである。	民地内に不法投棄されたものは市で回収することはできませんが、不法投棄につきましては、地域の課題として受け止め、地域のリーディングプロジェクトとして位置づけ、地域住民・団体・来訪者などの連携・協働による継続した事業となるよう取り組んでまいります。